令和２年度事業報告　（案）
社会福祉法人　尼崎武庫川園

１　令和２年度事業総括

令和２年度の事業計画内容のすべてにおいて、新型コロナウィルス感染症の影響により実施できなかったことや内容を変更、延期するなどのやむを得ない事態となった。法人内においてもリーブ・フルーリーにて陽性者が発生し、かろうじてクラスターの発生には至らなかったが、法人全体で感染拡大防止策を徹底するよう啓発に努めた。

（１）武庫アルテンハイムの老朽化の問題については、全面改築の可能性を模索し、兵庫県及び西宮市当局へ働きかけを行ってきた。高齢者施設としての長年の実績や貢献を訴え、現地を視察していただくなど、老朽改築に対する補助の必要性について粘り強く交渉を行いつつ、必要に応じて修繕を行ってきた。現状では特養については老朽改築に対する補助制度が無いが、引き続きその必要性について行政への働きかけを行っていく。

（２）人材育成・確保について、新卒採用者及び中途入職者についても新任研修を法人研修に位置付けて実施するようにし、各職場でのOJTと合わせて、新任者が法人理念や社会福祉法人で働く意義を理解できるようにした。また、ご利用者の人格を尊重することの大切さを学び介護・支援者として確実な育成の機会とした。法人研修においては階層別･職種別等を意識したテーマの研修を取り入れるよう努めた。人材の確保については、各種媒体を利用しての採用活動と採用チームによる新卒採用に向けた合同説明会等への参加を積極的に行ってきた。しかしコロナ禍における対面による説明会の実施困難等も重なり新卒は内定２名、採用は１名にとどまった。常勤職員の退職等による人員減については非常勤や派遣職員の採用等で必要な人員の確保に努めた。

（３）通所事業の再編について、段階的に進めていく中で今年度は第２松の園において、内職作業による工賃の維持が困難になってきていたこともあり、ご本人やご家族への丁寧な説明を行ったうえで、作業量の見直しと、かねてからニーズが顕在化していた創作的活動や健康維持活動の導入を図るよう一部事業内容を転換した。あわせてご利用者のニーズに沿って、第１松の園も含めた事業の再編についても説明を実施し､作業の出入荷を共有するなど再編に向けた準備を進めた。

（４）緊急時の体制整備について、通所利用者の高齢化及び高齢障害者対応として、リーブ・フルーリーのショートステイ事業を共生型として指定申請を行った。そのことにより介護保険対象の障害者の方もご利用いただけることとなった。高齢障害者の方の認知機能の衰えに対応するため、認知症に関する基礎研修等を取り入れた。

（５）地域貢献について、コロナ禍において地域の方との交流を活発に行うことは非常に困難であった。恒例の武庫川園祭りも中止せざるを得なかった。そのような中でも地区社協との連携のため、７月及

び９月の段上福祉委員会への参加、段上地区懇談会での施設交流会（ななくさ清光園・ななくさ学園・にしのみや聖徳園）においてご利用者も交えた企画実施などを行い、情報交換等に努めた。

（６）防災対策について、感染症も含めた総合的な BCP 計画について検討を進めているが完成には至っていない。大雨や台風を想定した洪水警報発令時の避難、応援体制等の確認のため、総合防災訓練を企画していたが、感染拡大防止のため中止した。洪水の場合の避難想定場所である新館 3 階及びリーブ・フルーリー4 階へ毛布などの備蓄を行った。

2　職員配置

常務理事 施設長兼務	施設長	事務員 施設事務兼務		
1	5	3		

2 年 3 月 31 日現在

3　法人主催研修

実施日	研修名	人数及び対象階層	地域
4 月 1～10	新人職員研修	2 名　新規採用者	
5 月 8 日	感染対策研修	5 名　役職者	
7 月 3・17	必要な法律知識研修	5～7 名　新採用及中途登用者等	
7 月 29 日	中堅職場実習	5 名　中堅職員	
8 月 28 日	サビ管研修①	5 名　サビ管及び役職者	
9 月 4 日	サビ管研修①	6 名　サビ管及び役職者	
10 月 2 日	サビ管研修②	5 名　サビ管及び役職者	
10 月 16 日	サビ管研修②	6 名　サビ管及び役職者	
2 月 26 日	実践報告会	17 名　全職員	
3 月 12 日	実践報告会	20 名　全職員	1
3 月 19 日	実践報告会	13 名　全職員	

４　年間行事

月	行　事　内　容
4 月	1 日　辞令交付式、法人新任研修 委員会（衛生、事故対応、広報、採用）
5 月	委員会（衛生、事故対応、広報、採用）
6 月	17 日　会計監査 29 日　監事監査 委員会（衛生、事故対応、広報、採用）
7 月	9 日　理事会（事業報告・監事監査報告、決算報告） 27 日　評議員会（事業報告・監事監査報告、決算報告） 27 日　理事会（理事長の選任） 委員会（衛生、事故対応、広報、採用）
8 月	委員会（衛生、事故対応、広報、採用）
9 月	委員会（衛生、事故対応、広報、採用）
10 月	委員会（衛生、事故対応、広報、採用）
11 月	28 日　正規職員登用試験実施 委員会（衛生、事故対応、広報、採用）
12 月	10 日　第 2 回理事会（第一次補正予算等） 17 日　第 2 回評議委員会（第一次補正予算等） 委員会（衛生、事故対応、広報、採用）
1 月	評議員選任・解任委員会の開催 委員会（衛生、事故対応、広報、採用）
2 月	委員会（衛生、事故対応、広報、採用）
3 月	9 日　第 3 回理事会（第 2 次補正予算・令和 3 年度事業計画・令和 3 年度当初予算・就業規則等改正） 26 日　第 3 回評議員会（第 2 次補正予算・令和 3 年度事業計画・令和 3 年度当初予算・就業規則等改正） 委員会（衛生、事故対応、広報、採用）

松の園

1　令和２年度事業総括

２年度は、男性 22 人、女性 23 人、計 45 人満床でのスタートであった。しかし、70 代男性ご利用者の入院が長期にわたり 8 月末で退所、60 代女性ご利用者は、3 月に病気で緩和ケア病棟に入院し退所となった。10 月に第 2 松の園から男性利用者が入所、女性は昨年度から短期入所をご利用いただいていた方が 4 月に入所予定である。空床期間が長期化しないよう、入所希望者の情報を得て、スムーズに受け入れられるよう準備をした。帰宅者が減少したこともあり、収入は 440 万円増となった。短期入所の延べ日数は 347 日で前年の 135%、日中一時は 81.3 時間で、前年の 65%のご利用があった。

新型コロナウィルスの対策として、マスクや消毒液等をしっかり備蓄し、職員が不安にならないよう十分に備えた。4 月には飛沫感染を防ぐため、2 人部屋すべてにパーティションの設置を終え個室化した。日中は必ずご利用者もマスクを着用し、手指消毒の徹底、密を避け換気をおこなうという基本的な行動を身につけていった。清掃の非常勤職員を雇用し、清潔な環境を保つことができたことが、体調不良者が例年より激減し感染者を出さなかった要因と言える。また、通所ご利用者と同じエリアで活動していることが不安であったが、動線を変え時間差で動くことで接触を避けることができている。

ご利用者が楽しみにされている旅行や遠足、外食、ボーリング大会等の行事を行うことができなかった。松の園は外出行事が多く、殆どの行事が中止となり楽しみを奪うことになった。定期的に帰宅されている方には自粛をお願いし、日常の買い物も職員が代行するような状況で、ご利用者には多大な我慢を強いることになった。園内での少人数グループでの活動に切り替えたり、近隣を散歩することで季節を感じてもらった。保護者会にも協力を求め、特に「食」を充実させて満足していただいた。

日中活動の中心は生産活動だが、昨年度 127 万円であった収入が 98 万円に減少した。新型コロナウィルス感染症の影響で請け負う量が減っていることに加え、密を避けるために作業場を分散させ、効率が悪くなっていることが原因である。ご利用者に支払える平均年間工賃は昨年度より 6.000 円減って、年額 22,000 円であった。十分な額とは言えないが、働いて対価を得るということは、社会・経済活動に参加していることでもあり、とても有意義な活動だと認識している。生産活動を主軸に置いていることで、生活にメリハリがあり、作業に携わることを生きがいに感じておられる方も多い。支援計画に基づき、いきいきと暮らせるよう、ご利用者主体の日課をプログラムしている。緊急事態宣言発令期間を除いてボランティアの方々の力を借り、手芸や音楽などの余暇も充実させた。

研修は感染対策が主になったが、障害特性理解や不適切な支援を行わない知識とスキル取得は 7 年続く朝礼時の読み合わせを活用した。

2　職員配置

施設長	事務員 本部事務兼務	サービス管理責任者	看護師 （非常勤）	管理栄養士
1	1	1	1（1）	1
理学療法士 非常勤	支援員 常勤（嘱託）	支援員 非常勤	嘱託医 内科、精神科、歯科、耳鼻咽喉科	ボランティア グループ　1 個人　2
1	10（1）	12	4	

2021 年 3 月 31 日現在

3　内部・外部研修

	研修日	研修内容	参加
内	5 月 2～8 日	手洗いチェック　チェッカー使用（支援員）	23
内	5 月 13 日～	PPE 着脱研修、ゾーニング確認　（全員）	31
内	7 月 20 日	B 型肝炎感染予防対策と日常生活支援(支援員)	6
内	9 月 23.24 日	心肺蘇生法　AED 研修	25
内	9 月 29 日	新任研修　緊急時対応・感染症（支援員）	4
外	10 月 1 日	障害者虐待対応力向上研修（支援員）	1
外	10 月 8 日	病気を良く知りケアに活かす（看護師）	1
外	10 月 14 日	サービス管理責任者更新研修（サビ管）	1
法	10 月 13 日	摂食・嚥下についての基本講習会（支援員）	1
法	12 月 8 日	コロナ陽性者発生時の対応（支援員・看護師）	4
法	1 月 15 日	安全衛生推進者養成研修（衛生委員）	1
法	3 月 8 日	感染症対策研修（支援員・看護師）	5
法	3 月 26 日	接遇研修（支援員）	2

4　年間行事

月	日	行事内容	参加人数
4 月	(3/30)	お花見弁当・ドライブ	42
4 月	11	昼食づくり	9
4 月	25	昼食づくり	10
5 月	9	昼食づくり	9

5 月	23	昼食づくり	9
6 月	19	ケータリング会（寿司・フライ）	43
7 月	7	七夕会＆食事会	42
7 月	10	健康診断	44
8 月	13	コンビニ外出	42
8 月	18	ミュージックセラピー	38
8 月	31	夏祭り	41
9 月	15	ミュージックセラピー	38
10 月	20	ミュージックセラピー	36
10 月	24	バーベキュー①	42
11 月	13	ミニ運動会	42
11 月	21	バーベキュー②	41
12 月	12	バーベキュー③	43
12 月	24	クリスマス会・食事会	42
1 月	2	ケーキバイキング	43
1 月	16	新年会・餅つき	43
1 月	23	バーベキュー④	42
2 月	2	節分会	44
2 月	27	バーベキュー⑤	44
3 月	27	バーベキュー⑥	42
手芸		6/24.7/15.7.31.8/21.8/27.9/8.9/28.10/6 11/9.11/25	毎回 4.5 名

毎月・毎週の行事

・誕生会・理美容・血圧体重測定・内科検診・精神科往診

・オーラルケア・おやつ作り（毎週）

・耳鼻科検診（年 2 回）

5　月別生産活動収益

月	月別合計金額
4 月	89.210
5 月	69.465
6 月	75.358
7 月	68.365
8 月	73.786
9 月	104.225
10 月	83.872
11 月	79.090
12 月	77.646
1 月	85.525
2 月	80.850
3 月	92.090
合　計	979.482

カトレアの園

1　令和２年度事業総括

令和２年度は入所者 44 名通所者 11 名でスタートした。年間通じて入所受け入れの検討を行い、マッチングを図った。体験された方の 1 名が 2 月入所につながった。男性ご利用者 2 名が入院中に医療ケアが必要となり退所。通所の方 1 名が家族の高齢化により今後の通所支援が難しくなるため近隣の事業所に移るために退所となった。

新型コロナウィルス感染予防策の取り組みは年間通じて①クラスターを発生させない②濃厚接触者にならないの 2 点を目標にあげ、感染予防のための研修・防護服の研修など定期的に行った。陽性者が出た場合迅速に対応するためレクリエーションスペースをレッドゾーンとして環境を整えている。行事や日中活動については男性女性の区分けを行い実施した。そのため入浴日の活動の提供が困難になっている。午前中は体操をメインに実施し、午後は集団で毎月のカフェタイムや、アプリを使って「えほん広場」「グーグルアースツアー」などを取り入れた。感染予防のため中止していたボッチャも個人練習の形で再開している。今後男性女性の区分けは継続するので個別の活動も含め、活動の内容を検討していきたい。

リハビリでは、理学療法士が 1 名退職したことと、感染予防のため密着した施術は極力行わず、生活リハビリを中心に実施している。身体機能に配慮が必要な方が増えているため、理学療法士のアセスメントと職員の連携が重要になってきている。

虐待防止委員会は呼称についての啓発とグループワークに取り組んだ。

リフト委員会は 24 時間ケアの取り組みを協力いただいた企業のＷＥＢ研修で事例発表を行った。ご利用者の姿勢ケアを通じて 24 時間の生活に着目し支援の目的や情報の共有を行い、実践しアセスメントするという支援の基本的な取り組みをすることでご利用者の生活の質の向上につながる経験ができた。また、業務の負担がある場面についてアンケートを実施し、結果をもとに介助方法の見直しや研修を行った。1 月に西宮市の「ロボット等導入支援事業」を利用し非接触で呼吸・睡眠・体動を感知できる見守りセンサーを 5 台導入し夜勤業務の効率化と精神的ストレスの軽減、ご利用者の転倒防止を図った。また睡眠状況を可視化できることから支援の質の向上も期待できる。コロナ禍においては接触を避けてご利用者の見守りが可能となった。

3 月にはやまぶき財団の助成金を利用し厨房の業務用冷蔵庫場の入れ替えを行った。

2　職員配置

施設長	事務員	サービス管理責任者	看護師	栄養士
1	1	1	2	1

理学療法士	支　援　員 常勤（内嘱託）	支　援　員 非常勤	清掃・運転 非常勤	
１	２４（３）	１０	５	

令和３年３月３１日現在

３　外部・内部研修

外部研修

実施日	研修名	参加人数
１１月１８日	摂食嚥下研修（ＷＥＢ）	２名（栄養士・生活支援員）
１２月１～３日	シーズ・ニーズマッチング交流会(自立支援機器ＷＥＢ研修)	１名（ＰＴ）
１２月８日	クラスター発生施設の事例（ＷＥＢ）	２名(看護師・支援員)
１２月１３日	安全衛生推進者研修（ＷＥＢ）	１名（支援員）
２月５日	医療・福祉・生活をつなぐ２４時間姿勢ケア	７名（ＰＴ・生活支援員）

内部研修

実施日	研修名	参加人数
４月９日	新任研修	２名
５月１日	感染対策マニュアル研修	２１名
７月	防護服脱着研修	全員
８月１６日	権利擁護研修	５名
９月１８日	気づきの力を高める	３名
１０月９日	真の主訴を考える・行動・心理症状はなぜ起こるのか・バイスティック７原則	３名
１２月２５日	感染対策研修	１９名
２月１２日	権利擁護研修	５名
２月～３月	防護服脱着研修	全員

４　年間行事

月	日	行　事　内　容	参加人数
４月		花見ドライブ	５０名
	１７日	春の行事	４６名
７月	１０日	健康診断	５２名
	３１日	スポーツ大会	４４名
		とことん外出イオンモール	５２名

８月	２２日	レスパイト・フルーツポンチづくり	３９名
１０月	９日	バーベキュー	４１名
	２５日	レスパイト映画上映	４０名
	３０日	花火大会	４７名
１１月	１３日	お祭りメニュー	４８名
	２５日	段上地区ＺＯＯＭクイズ大会	２０名
１２月	１８日	クリスマス会	４４名
１月	２８日	段上地区懇談会	２０名

武庫アルテンハイム（案）

1　令和２年度事業総括

令和２年度は特養稼働率 75.1%（平均 45 名）、短期入所稼働率 53.6%（平均 2.7 名）であった。

新規入居者の面談予定を立ててもリモートすら遠慮して欲しいという施設や医療機関も多かったことと、利用者の身体機能の低下が大きく進み、体調を崩す方が増えたこと、入院して長期化する、もしくはさらに状態が低下して退院するといった重度化も進んだ。また、急変されるとそのまま死につながる利用者も多く、入所面談が追い付かなかった。

食事や排泄介助を全介助で行わねばならない方が増え、現在の施設設備や動線が職員にとって介護負担になってきている。「アルテンハイムの労働はきつい」ということで、法人内の他施設からの異動がままならないという事態の解消も必要になっている。

ショートステイでは、まだ 50%を超えるような状態であるが、土日の送迎の実施、土日の生活相談員等の出勤体制を作ることで緊急ショートの受入れ相談件数が増え、実際に利用に結びついていることで新しい利用者の獲得とリピーターを獲得できている。部屋割りの難しさは変わらないが、平均して 60%を超えるように進めていきたい。

昨年度と同様、インフルエンザ対策は早めの加湿器と次亜塩酸水での消毒実施、職員のマスク着用と職員ひとり一人が消毒等を徹底することで、インフルエンザも新型コロナウイルス感染者も出さずに乗り切れた。他施設に比べて、まだ感染防止対策の甘い面は否めないため、今年度はより丁寧に対応を行いたい。

従前から挙げていることであるが、設備機器の老朽化は着実に進んでおり、昨年末に 2 階北側廊下の空調 4 基が故障し、既に部品交換や修理が出来ないことが判明。新たに購入するしかない状態となった。故障した箇所のみを新規購入するのか、故障した機器と同時期の空調機器が 75%もあり、随時入替えをする方がいいのか、現在業者とも協議中である。また、屋上の防水シートも経年劣化のため交換時期が来ている。蛍光灯も、すでに市場に出ているものしか手に入らなくなっており、LED 化も含めて施設全体の最低限の設備投資の是非も課題として残ったままである。

2　職員配置　※派遣職員除く（3 月末日で派遣職員は 2 名）

施設長	事務員 非常勤	介護支援 専門員	看護師 （准看護士）	管理栄養士
1	2	1	3（2）	1
理学療法士 非常勤	介護職員 常勤（嘱託）	介護職員 非常勤(生活支援)	清掃業務 非常勤	生活相談員
1	14（1）	13（3）	1	1

3 年 3 月 31 日現在

3　内部・外部研修

実施日	研修名	主　催	参加者
6 月 30 日～ 11 月 26 日	介護職員上級研修　計 7 日	兵庫県介護福祉士会	1 名
7 月 3 日	仕事で必要な法律知識	法人内研修	1 名
7 月 15 日	令和 2 年年度介護保険制度研修	西宮市ケアマネジャー協会	1 名
7 月 17 日	仕事で必要な法律知識	法人内研修	1 名
10 月 17 日	法人中堅研修	法人内研修	1 名
11 月 12 日、 19 日	喀痰吸引等研修（実技）	メディカルケアプラス	1 名
12 月 31 日	新人研修	施設内研修	1 名
1 月 15 日	安全管理トップセミナー	ランゲード株式会社	1 名
3 月 16 日	クラスター発生施設から学ぶ	ユニ・チャーム（株）	1 名
3 月 12 日他	実践報告会	法人会研修	5 名

4　年間行事

月	行　　事	
4	花見昼食会 ミニ外出（桜花見、車窓観桜会）	48 名 12 名
5	端午の節句会（マグロの解体ショー）、菖蒲湯入浴	45 名
7	万代お買い物企画（計 4 回）	2 名
9	・敬老会	43 名
12	・クリスマス会・ゆず湯入浴	44 名
1	新年会	46 名
2	・節分会・手作りおやつクッキング	43 名
3	「食べたい食事を食べよう！」企画（デリバリー）	19 名

第２松の園

１　令和２年度事業総括

令和２年度、第２松の園では利用契約 40 人でスタートした。

１日の平均利用者数は 33.68 人、定員 35 人に対して 96.2%の利用率であった。前年度に比べ 0.9%減少したのには、下記の影響があった。

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の発令により在宅対応をされた方は出勤として算定。

令和２年７月に男性利用者１名が家庭の事情で欠席が続いており、ご本人、ご家族、相談支援員で話し合われた結果、ご自宅近隣の事業所を利用することになり退所となる。

令和２年８月に男性利用者１名が他法人の入所利用を予定にするためにショートステイを長期で利用されるとのことで退所となる。

令和２年１２月より女性利用者１名が病気療養のため長期の欠席となる。

令和３年３月には男性利用者１名が松の園への入所が決まり、退所となる。

生産活動に関しては、今年度も営業の窓口として目標工賃達成指導員を配置し、ジョブステーション西宮からの作業や、単独では受注できない仕事を請け負うことができた。また、西宮市上下水道局より、引き続き水道メーター解体作業を請け負うこととなった。

障害特性に応じた構造化などの支援を行い、作業工程を細分化して提供をおこない、利用者１人ひとりが携われる工程を増やし、様々な経験を積み、スキルアップに繋がっている。

令和２年９月、出荷した商品に不良品を出す事故があり、請負先まで出張し検品作業を行う事となる。

令和２年１２月にも不良品を発生させる事態となり、請負先に謝罪をおこなうこととなった。

ご利用者の障害特性の多様さや高齢化にともなう機能の低下、作業に関わる職員の負担や請け負う作業技術の高度化の状況を踏まえ、作業中心の事業運営から快適に過ごす空間やご利用者の個別支援の充実を考えた事業方針への転換をおこなう事となり、令和２年１０月からご利用者、ご家族への説明会を実施し余暇活動や作業以外の生活支援等の充実をおこなっていくことに同意を頂いた。

職員体制については、７月にパート職員１名を雇用し８月より正規職員１名が育児休暇に入る。

９月から正規職員が病気療養のため長期休暇になり、人員の不足を他施設から職員の応援に入ってもらうことでサービス提供体制を維持していく事ができた。

１月に正規職員が自己都合で退職になりさらなる人員不足の状況が見込まれたので、第１松の園から１名を出向で業務に当たった。２月より病気療養の職員が復帰し、出向職員は２月いっぱいで終了となる。

不良品の発生に伴う検品作業、体調不良等による有給利用、作業の

準備、片付け、梱包、事務員の事務作業、行事の準備などで超過勤務が発生、令和２年度合計で３３１時間４０分の超過勤務が発生した。
入力支援ソフト「ほのぼの」を導入しケース記録や日誌などの事務作業の効率化を図り、令和２年度中の現場職員における事務作業による超過勤務は減少することができた。
施設整備では西コーナーエアコン故障に伴う修理を実施。新型コロナウイルスに伴い活動場所を分散することや他施設で発生した場合に過ごす場所としての整備の為、両作業場にテレビ設置とアンテナ設備工事を行った。

2　職員配置

施設長	事務員	サービス管理責任者	生活支援員	目標工賃達成指導員
1	1	1	1	1
職業指導員 常勤（内嘱託）	職業指導員 非常勤			
2（1）	6			

令和３年３月 31 日現在

3　外部・内部研修

実施日	研修名	参加人数
5 月～3 月	社会福祉施設長資格研修	1
5 月 8 日	感染症対策（法人）	2
5 月 25 日	感染症対策（施設内）	9
8 月 28 日	サービス管理責任者研修	1
9 月 4 日	サービス管理責任者研修	1
9 月日	コーチング	1
月日	アンガーマネジメント	1
10 月 2 日	サービス管理責任者研修	1
12 月 16 日	管理者の為の問題解決力向上	1
1 月 6 日、7 日	新人研修　法人理念	2
1 月 8 日、12 日	新人研修　特性理解（知的）	2
1 月 19 日	新人研修　権利擁護虐待防止	1
2 月 18 日	新人研修　特性理解（発達、精神）	2

4　年間行事

月	日	行　事　内　容	参加人数
4 月	10 日	お花見	25 名
7 月	7 日	七夕	32 名
	9 日	健康診断	36 名
8 月	7 日	夏祭り	31 名

	14 日	大掃除	27 名
9 月	25 日	お月見行事	33 名
12 月	18 日	クリスマス会	33 名
	28 日	大掃除	34 名
1 月	16 日	新年会	26 名
2 月	2 日	節分会	21 名
3 月	3 日	ひな祭り撮影会	33 名

5　月別生産活動収益

月	月別合計金額
4 月	200,695
5 月	229,849
6 月	336,813
7 月	287,877
8 月	409,881
9 月	280,948
10 月	436,278
11 月	332,817
12 月	266,303
1 月	137,108
2 月	133,390
3 月	80,207
合　計	3,132,166

リーブ・フルーリー

1　令和２年度事業総括

令和２年度は10月に女性利用者１名が亡くなられ、11月には男性利用者１名が亡くなられるといった悲しいことが続いた。また女性利用者１名は長期入院から病状が回復せず11月に退所となった。現在、長期入院中の方もあり、生活介護事業における年間の平均利用者数は48.7人から46.7人となった。入所の空床については年度内に１名、3年度の早い時期に２名の入所者が内定している。令和３年１月中旬には職員１名、ご利用者２名が新型コロナウィルス陽性となってしまった。ご利用者については、地域の医療体制がひっ迫していたこともあり入院調整がつかず施設内別フロアーでの隔離体制を取り、限定した職員が対応に当たった。幸いにもごく軽症・無症状で経過され、それ以上の感染拡大には至らなかった。短期入所については、新型コロナウィルス感染症の影響により入所利用者への感染拡大防止のため、緊急事態宣言期間及び地域の感染状況悪化により受け入れを中止した期間が多くあったため、延べ利用者数は減少となった。過去５年間の延べ利用者数の推移は以下のようになっている。

年　度	28年度	29年度	30年度	元年度	２年度
人　数	934人	1199人	1330人	1440人	843人

新型コロナウィルス感染症の影響により予定していた日帰り・一泊旅行は中止、外出活動も大きく制限した形での一部実施となった。感染対策のため、面会や外泊の制限をかけざるを得ない時期が多く、ご利用者の多くはストレスの高い生活を強いられることとなった。職員にとっても自身の行動自粛や感染対策への対応に加え、ご利用者へのサービス提供場面では施設内で楽しめる活動や小グループでの活動を模索した一年となった。楽しみな活動となっていた音楽療法について、緊急事態宣言中はオンラインでの実施を試行し、参加人数を制限しつつ継続して行った。設備備品の更新については予定通り厨房食洗器、地域交流スペースの音響設備を更新した。また、各トイレブースや居室建具など経年劣化による痛みの修繕を行った。コロナ禍によって食事場面の密を避けるため、女性利用者は２階での食事提供とし、配膳車を購入して衛生的に運搬できるようにした。

ご利用者の健康管理では、協力医療機関及び嘱託医との連携により疾病の早期発見・早期治療に努め、感染症予防措置の強化などに取り組んだ。高齢化による医療の必要度は高まる傾向にあり、今後も近隣の医療機関を含め、協力体制の維持に努めていく。

短期入所事業は、緊急時など法人内通所施設のニーズに応えつつ高齢になられた方に対応するよう共生型の指定をとった。これにより、介護保険適用となったご利用者にも今まで通り短期入所をご利用いただけることとなった。

2　職員配置

施設長	事務員 本部事務兼務	サービス管理責任者	看護師	管理栄養士
1	1	1	2	1
理学療法士	支援員 常勤（嘱託）	支援員 非常勤		
1	１９（３）	9		

3 年 3 月 31 日現在

3　内部・外部研修

＜外部＞

実施日	研修名	参加人数
9 月 12 日	利用者と介護者を守る介護技術研修	1 名（支援員）
10 月 5 日	はじめて福祉の仕事に就く人のための研修	1 名（支援員）
10 月 21 日	新型コロナウィルス感染症対応の実際	1 名（看護師）
10 月 30 日	サービス管理責任者更新研修	1 名（サビ管）
11 月 7 日	介護技術（起居動作編）研修	1 名（支援員）
11 月 10 日	アセスメントスキル向上研修	2 名（支援員）

＜内部＞

実施日	研修名	参加人数
10 月 19 日	感染症対策研修	10 名
12 月 24 日	感染対策シュミレーション	10 名

4　年間行事

月	日	行事内容	参加人数
4 月	7	花見食事会	50
5 月	3	おやつ作り	30
7 月	11 月まで	選択外出	49
8 月	6	夏の集い	48
10 月	13	ミートフェス	48
10 月	26	西宮市民祭	
12 月	20	クリスマス会	50

1 月	13	新年会	48
3 月	16	おやつバイキング	47

第１松の園

１　令和２年度事業総括

10 代 3 名から 60 代までの 46 名定員を定員緩和の 49 名の契約で開始した。11 月に入院、逝去された方、1 月から施設入所となられた方が各 1 名おられ、年度末には 47 名の利用となった。60 代の利用者は、10 月から長期入院となり、いったん退院されたが、再入院のため登園できていない。相談支援事業所と連携して、再登園できるよう契約は継続中である。定員に対する登園率は 92 パーセントで昨年比 4 パーセント減となった。新型コロナ感染拡大の影響により登園自粛を選択していただかざるを得ない状況になったことから、通常の事業運営が困難となったが在宅支援なども含めた事業継続を行ったことで登園率の落ち込みは抑えられた。感染対策の徹底・職員研修や啓発・利用者ご家族への協力依頼など 1 年を通じて感染蔓延化での事業継続について取り組んだ。

職員の研修機会は少なくなったがその分オンライン研修を取り入れて、スキルアップを目指し、自閉症・強度行動障害・高齢化支援に対応を継続してきている。

高齢化と将来の不安についての取り組みはコロナ禍の中でほとんど進めることができなかったが、高齢化や登園自粛後の不調を、提携医院の月 1 回医師の訪問医療相談と・週 1 回の看護師による健康相談を行った。そのうちのお一人に在宅医療の必要性から連携を取ろうとした矢先に倒れられ、継続できなかった。お一人は 3 年間にわたるショートステイをつないだ生活から、入所生活に無事移行され支援をつなぐことができた。

行事・活動のグルーピングは「密状態にならない、声を出さない」といった活動の制限で、実現できなかったことが多いが、コロナ禍でもできることを利用者の実行委員と共に行ったことで、意思決定の活動充実に結びついた。

就労継続 B 型の工賃は紙加工・段ボールなどの受注減や比較的簡易な作業の受注ストップがあったが、自主製品のカタログ販売や新しい作業にも挑戦することで、5000 円をクリアした。特別支援学校やご家族の協力も得て、利用者の得意とするものでの工賃収入に結びつけることができた。再編成に向けての第 2 松の園との情報共有を行い、今年度継続して取り組みが進んでいる。

広報は毎月の園だよりと職員全員がかかわるブログ更新ができ、ホームページを見て、進路先にという声が複数寄せられた。

西宮市・国から感染予防対策費用の補助と ICT 導入費用・就労継続事業助成などの補助金を受け、感染予防備品について困ることなく充足でき、記録ソフトの導入による職員の業務効率化が進み、ネット環境の整備で利用者余暇が充実してきた。ワゴンやミシンなどの購入で自主製品の幅も増えた。

安全については 44 件のヒヤリハット・事故報告が上がった。

権利擁護面では、苦情が 11 件寄せられ、改善につなげた。

2　職員配置

施設長	事務員	サービス管理責任者	看護師 パート	栄養士
1	1	1	（1）	0
理学療法士 非常勤	支援員 常勤	支援員 非常勤		
0	9	5		

R3 年 3 月 31 日現在

3　外部・内部研修

実施日		研修名	参加人数
4 月	～10 月	「知的障害を理解するための基礎講座」通信教育　新人研修	支援員 1
5 月	～6 月	知的障害者 e ラーニング	全員
8 月	～9 月	兵庫県感染予防研修　動画	全員
１０月	２１	障害者の福祉的就労と日中活動サービス	支援員 1
	２３	アンガーマネジメント研修	支援員 1
11 月	２１～２２	アセスメントセミナー余暇・家事	支援員 1
	２５	社会福祉情勢セミナー	管理者 1
１２月	2	障害福祉分野における ICT の導入について	管理者 1
	２８	発達・知的障害についての基礎知識と支援のポイント	支援員 1
2 月	１３	発達障害自立と自己決定	支援員 1
2 月	１８	障害のある人の健康診断（オンデマンド）	支援員 2
	１８～	法人中途採用職員研修　精神障害・発達障害	支援員 2
	１７	自閉スペクトラム症ワークショップ①	支援員 1
	２０	性問題行動をトラウマのレンズで理解する。	支援員 1
	２６	気になる子どもが変わるとき　子供の理解と支援を考える	支援員 1
3 月～		看護協会　感染予防基礎　動画	全員

	１７	自閉スペクトラム症ワークショップ①	支援員１
	8	感染対策研修　看護協会　オンライン	支援員２

４　年間行事

月	行事内容	人数
4	花見	26
6	阪神特別支援学校販売会→カタログ販売	
7	七夕作品展→1松マーケット 定期健康診断	全員 39
8	１松夏祭り→夏のおやつ会	全員
9	スポーツ大会→ミニミニスポーツ大会	43
１０	阪神特別支援学校生徒実習	
１１	武庫川園祭り→祭りメニュー昼食　芦屋特別支援学校生徒実習	42
１２	日帰りグループ旅行→行楽弁当　　クリスマス会 芦屋特別支援学校カタログ販売	42
1	新年会	43
2	節分→　おやつ会	43
3	ひな祭り	全員

毎月　誕生会　　避難訓練

未実施　クラブ活動　外食昼食会・日帰り旅行・家族交流懇談会（西宮市民祭り）（尼崎ミーツザ福祉）保護者会大掃除・懇談会　西宮市作品展　個人懇談　クラブ活動報告

5　月別作業収入

4 月	168090
5 月	175060
6 月	149706
7 月	168058
8 月	154367
9 月	176567
10 月	95822
11 月	103645
12 月	76540

1 月	111790
2 月	99003
3 月	94038
計	1572686

こころ＆つばさ

1　令和２年度事業総括

現在男性４名女性２名のご利用者が生活されている。
2 から 4 か所の日中の活動場所を利用されカトレアの利用は 1 から 2 日利用されている。送迎の課題はあるものの健康面や相談支援員との連携など何かあれば対応できるようフォローをしている。共同生活援助における居宅介護・重度訪問介護個人単位利用については令和 3 年 3 月まで継続されていたが、延長されることが決定した。現状は夜間のみの職員配置となっており今後制度化されるよう要請していきたい。
６５歳になるご利用者の今後の生活や、一人暮らしのご意向がある方について関係機関と相談支援員、とカトレアの職員で担当者会議を持ち、その方の支援の方向性を共有できた。
1 月カトレアにおいて段上地区懇談会の地域で暮らす様子を発表する場があり、女性のご利用者が発表者となった。
地域で暮らすことの楽しさ、これからの夢などを語られ、ボッチャを地域の方ともしてみたいと意欲を持たれた。ご自身でも日中の様子を録画されるなど発表の準備をされた。
男性職員の学生が卒業や就職のため退職され、その補充を派遣職員で行っている。
感染予防の取り組みは職員一人一人に感染予防の資料を渡し、ポスターの掲示等で注意喚起を行った。ご利用者にも地域での生活の中で自ら感染防止に取り組めるよう感染予防についての面談を行った。

2　職員配置

管理者	サービス管理責任者	支援員 非常勤
1 名	1 名	17 名

令和 3 年 3 月 31 日現在

かがやきステーション

1　令和２年度事業総括

法人内入所利用者４９名・通所利用者４２名・障害者就労枠利用者１名・法人外利用者２名の利用者を「サービス等利用計画支援」４８件「サービス継続支援」１５６件「サービス提供時モニタリング」２４２件を作成し、障害者サービス利用によって本人らしい生活が成り立つような相談活動を行った。法人内共通の支援ソフト導入と ZOOM 対応可能なパソコン購入で業務の効率化が進んだ為、事業報酬は 1.3 倍となった。また、地域からの一般相談（進路相談を含む）は４件あった。

令和２年度はコロナ禍もあったからか、入院による医療保険移行２名・疾病による死亡３名、事業所変更２名など、健康上のサービス利用中止や変更が例年になく多くみられた。また、長期入院先で療養型施設利用変更のための区分認定調査の立ち会いや、遠方の行政に代わり認定調査も担当した。

通所・移動支援・ショートステイなどのサービス計画は、感染リスクからの利用制限となり、相談支援としての面談の制限もあり、利用者にとって必要な代替案を考えなければならなかった。また、地域でコロナ感染があった事業所と連携し、情報共有できた。かがやきステーションでも、在宅支援相談の利用者がコロナ感染し、相談支援職員がすぐに検査を受けることができるよう行政と調整を行った。結果は陰性となり、事業は翌日から開始できたが３人の相談員が仕事を１日休まざるを得なかった。

法人内通所利用者の、ご家族調整が難しい事例の、ショートステイの調整・家庭からのヘルパー送り出し・入浴支援など、コーディネートも継続して行った。そのうち２名が入所サービス利用につながった。通所事業所の職員とともに、困難を抱えた利用者の医療連携やグループホーム利用などの調整を行い生活を成り立たせている。法人外の緊急一時入所調整も地域事業所と連携を取り行えた。

また、法人内事業所の処遇に関する苦情を相談支援が受けることで、支援の改善につなげるなど同一法人であるからこその役割も果たしてきている。しかし、入所施設利用者の「働きたい」「地域で暮らしたい」「充実した余暇活動をしたい」などのニーズに合わせた支援の調整は、コロナ禍で中断している。

西宮市自立支援協議会あんしん相談窓口連絡会に継続参加し情報共有を行った。法人内の相談支援事業の将来的な在り方の検討は継続中である。